

2005年8月6日(土)15:00~16:30 名細公民館 「男のゆうゆう塾」(Ⅱ)

第7回 「東電殺人事件の背景」

講師 曲山 浩 (詩人です)

出席者 7名 曲山、杉田、南、青山、上野、齋藤、和田



事件は、恵まれた環境の中で育ったエリート女性が、突然渋谷の円山町で一日4、5人を相手に売春に走り、7年後何者かに殺害されてしまう事件です。

理解できないのは、渋谷で売春していた事を、家庭でも、職場でも、皆が知っていたと言うことと、本人が東電本社の管理職だと言うことです。

犯人とされたネパール人は、1審の東京地裁で無罪判決にも拘わらず、東京高裁の職権による再拘留で、無期懲役となってしまいます。裁判は、殺人事件も、再拘留も、それぞれ最高裁で争われますが、上告、も抗告も棄却させてしまい何か、黒い霧が感じられました。

殺された彼女が可哀想と言うより、どこまでも汚れ落ちてゆく彼女の生き方に、切ない魅力を感じてくる事件です！

近く導入される陪審制度を考え、講座の人達で模擬的に行ってみましたが、ネパール人の有罪、無罪は半々に分かれてしまいました。人を裁くと言うことは難しいし、怖い事だとつくづく思い知らされました。

